

【瀬谷区】令和 6 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 6 年 2 月 5 日 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】川口広議員</p> <p>【議 員： 2 名】花上喜代志議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区： 3 3 名】植木八千代区長、池上武史副区長、 嶋崎孝浩福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 安平博災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度 瀬谷区編成予算案（個性ある区づくり推進費） ・その他報告案件
発言の 要 旨	<p><令和 6 年度 瀬谷区編成予算案></p> <p>【花上議員】令和 6 年度の予算の議会が始まり、各局から説明を聞いているところである。局の予算に対して、瀬谷区としても様々な要望を行ってきたと思うが、今回の横浜市の予算に関する受け止め方を聞かせてほしい。</p> <p>【植木区長】横浜市の予算案全体については、まず「子育てをしたいまち」に向けて、子育てに注力した予算案であると感じています。また、瀬谷区としては、2027 年の GREEN×EXPO 2027 の機運醸成に一番関心を持っています。区づくり推進費の予算だけでなく、区配等の予算も使って機運醸成を進めていくことができる予算編成になっていると感じています。さらに、上瀬谷の開発もかなり進んできており、実際に仮換地が終了し、地権者以外の地元の方も、今後の跡地利用がどうなるのかということにご興味を持っていらっしゃるのので、その点の予算についても注視しています。GREEN×EXPO 2027 がしっかりと成功に結び付くように、そしてできる限り地元の皆様が暮らしやすいまちになるように、区としても対応を考えていきたいと思えます。</p>

【花上議員】今の話にもあったように、横浜市全体の予算を見ても、上瀬谷に関する予算は非常に大きいということが一目瞭然で分かる。昨日の読売新聞に「園芸博会場 『横浜の顔』へ」というタイトルの大きな記事が載っていた。今までこのような記事がマスコミで報道されることはなかったと思う。私も今まで言ってきたように、これからは瀬谷の時代であるということが、この新聞記事に表れていると思う。上瀬谷のまちづくりについて、様々な予算が盛り込まれているが、現在、県営細谷戸団地の遊休地の一角に、園芸博覧会への新たな拠点事務所を作っているところである。先日の常任委員会で、何人くらいの職員が来る予定なのか聞いたところ、都市整備局長からは、民間の職員も含めて100人程度常駐する計画だという答弁があった。いよいよ上瀬谷の具体的なまちづくりも、花博と同様に始まっていくという段階に入ったのだと思う。このような、瀬谷に関する様々な新しい取組や動きが明らかになってきたなかで、瀬谷区長としても感慨があると思うので、その点について聞きたい。

【植木区長】周りがフェンスで囲まれ、上瀬谷の地域で工事が始まったということがはっきりと分かるようになってきました。どのようなGREEN×EXPO 2027になるのか、ということだけではなく、今お住まいの方は、生活にどういう影響があるのか、とご心配な部分も大きいと思います。その点を、区民に最も身近な区役所として、意見を聞きながら調整していきたいと思います。あと3年で始まるGREEN×EXPO 2027がきちんと成功し、瀬谷の知名度がより一層高まることを心より願っています。

【花上議員】これから上瀬谷の具体的なまちづくりが始まってくるなかで、地域の方の受け止め方によって、様々な懸念の声も出てくるかと思う。私は議員として、議会で都市整備局に直接質疑をし、実態について説明を受けているが、地域の方はマスコミを通じて情報を得るため、知らない部分も多いかと思う。これからは、様々な意見が区役所に寄せられると思うので、それに対して、区役所として適切な説明ができるようにしていくことが重要だと感じる。具体的なまちづくりが始まっていくなかで、しっかり情報収集し、瀬谷区の皆様がどういう懸念を持っているかをきちんと把握し、説明や対応ができる区役所であってほしいと思うが、どうか。

【植木区長】区民の皆様からは、瀬谷駅の周りや、交通網がどうなるの

かというご心配の声を聞いております。区役所だけで説明ができないものは、局がしっかり説明をするよう調整していきたいと思っております。また、区民の皆様が何を心配されているかということは、局よりも区役所の方が把握しやすいと考えているので、身近な区役所であるという機能を果たしていきたいと思っております。

【花上議員】今の政令指定都市制度のなかでの区役所の位置づけは難しく、区民の皆様が期待している役割と、区役所の実態が合わない部分もあるかもしれない。区役所で十分な対応ができない場合は、局でしっかり対応いただきたいと思う。そのためには、区局で連携して住民の皆様に対応していくことが必要になるが、その点についてはどのように考えているか。

【植木区長】以前より、上瀬谷に関する事業や工事については、事前に局から情報収集をして、区連会などを通してご説明しています。これから、上瀬谷のまちづくりが終了するまで、より都市整備局や道路局、環境創造局と調整を図ることが多くなると思っております。

【花上議員】区連会で区から皆様に説明し、意見を聴取しながら区政を進めているという実態については、会長の皆様からも聞いているところである。しかし、これからは今まで通りの連携では済まないというフェーズに入ると思う。区連会と区役所の関わりをさらに充実させていく取組が必要だと思う。これは区政全般に関連することだが、GREEN×EXPO 2027に限って話をすると、網代宗四郎さんが会長を務めている、横浜国際園芸博覧会瀬谷区推進協議会がある。連長の皆様が集まっているこの推進協議会を充実させ、区民の皆様に対して、GREEN×EXPO 2027を成功させるための取組を促していくことが重要だと思う。推進協議会にいかに関与してもらおうか、より一層の活躍をしてもらおうか。そしてそのためには、金銭的にもバックアップが必要かと思うが、この点についての気持ちを聞かせてほしい。

【植木区長】おっしゃる通り、区全体で盛り上げを図っていく必要があると感じております。それには、区連会だけでなく、地元の商店街の皆様、学校の皆様を含め、いろいろな団体と協力していく形をとりたいと思っております。推進協議会は、企業の皆様もメンバーに入っております。これから区のなかで、どのように盛り上げていくかを、多くの視点からご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。今

年度予算から、推進協議会に補助金を交付しています。今年度は、楽しそうなGREEN×EXPO 2027のイメージが、目で見えて分かるものを、ということで、せやまるのオブジェを作成しました。来年度の予算でも補助を予定しています。推進協議会の皆様のご意見を聞きながら、区のいろいろなところで、GREEN×EXPO 2027を楽しみに待てるような機運を作っていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

【花上議員】私たち議員も推進協議会の顧問になっているので、これまでの会には出席しており、各界、各層の方がメンバーとなっていることも承知している。オール瀬谷区でGREEN×EXPO 2027に対応していくことが必要だと考えている。そこで、こんなことをやってみてはどうかというアイデアがあるが、GREEN×EXPO 2027の進捗状況などを説明し、ディスカッションしていただくようなシンポジウムを瀬谷公会堂で開催してはどうだろう。一般の区民の皆様にも入っていただき、局や園芸博覧会協会から説明をして、議論していただくような機会が重要だと考えるが、どうか。

【植木区長】区連会の皆様には適宜情報提供させていただいていますが、まだGREEN×EXPO 2027がどのような博覧会になるのかという、意義や内容が詳しく説明できる段階ではありません。来年度、その点がもう少し明確になってきたら、多くの方、特にお子さん方に楽しみにしていただけるような取組もしていきたいと思っています。先程の事業説明にもありました通り、小学生の皆様が、GREEN×EXPO 2027の意義である、温暖化対策に取り組めるようなワークショップも計画しています。今後はさらに取組を発展させながら、多くの層の区民の皆様に、GREEN×EXPO 2027について知っていただく機会を作っていきたいと思っています。

【花上議員】先程シンポジウムについて発言したが、他にも様々な催し物を通じて理解を促すということが重要である。GREEN×EXPO 2027は国家イベント、国際イベントでもあるので、絶対に成功させなければならない。環境をメインテーマとし、これからの人類のあるべき姿を模索するという意味もある博覧会だと思っているので、お子さんも含め幅広い方に趣旨を理解していただきたい。まだ予算の審議が行われる段階なので確定したことは言えないが、新年度では、GREEN×EXPO 2027の趣旨を具体的に伝えるような取組やイベントなどを、区役所で知恵を出し合いながら進めていただくことを要望する。

先程区長から「子育て世帯だけでなく、あらゆる世代が幸せを実感できる瀬谷区を作りたい」とお話があった。これは非常に大事な考え方だと思う。年配の方から、市は子育て支援ばかりに注力しているのではないかと、という声が多く聞かれるので、瀬谷区は幅広い世代の方が幸せを実感できる区を目指している、ということを実感するような、具体的な取組が必要だと考える。少子化が進み、高齢者が増えているという時代の流れの中で、高齢者にも目を向けた取組が求められている。瀬谷区にはシニアクラブがあるが、残念ながら、加入する方が少ないという声を会長から聞く。実態を聞かせてほしい。

【府川高齢・障害支援課係長】シニアクラブの事務局や会長の方とお話しをすると、たしかに加入率が思うように伸びない、加入者が減っているところもあるとお聞きします。健康福祉局からは、横浜市老人クラブ連合会に補助金を交付しており、また、ホームページ作成の支援も行うなど力を入れていると聞いています。私たちも日々の活動のなかで、シニアクラブと直接お話ししながら悩みを聞いたり、知恵を出し合ったりする機会があるので、引き続き協力して進めていきたいと考えています。

【花上議員】高齢者が増えてきているにも関わらず、シニアクラブに加入しないというのはなにが原因なのか。シニアクラブに加入していただき、高齢者の方がいろいろな情報を得ながら地域で活動していく、という仕組みが非常に重要だと考えているので、クラブそのものに対する助成や、会員を増やすための方策は、区役所として対処していく必要があると考える。シニアクラブに限らず、多くの方の話を聞きながら、高齢者の組織の活性化に努めていただくよう要望する。

次に、感染症について、相変わらずコロナウイルスやインフルエンザが猛威を振るっているという話を聞き、やはり感染症対策の取組はおろそかにしてはならないと思っているところである。現在のコロナウイルス、インフルエンザの感染状況について、学校教育の現場の状況も含めて聞きたい。

【瀬戸福祉保健課長】直近の感染状況についてご報告します。まずはコロナウイルスについては、全国的に感染者が増加してきていると言われていますが、瀬谷区でもここ数週間で増えてきています。直近では、定点あたり12名の患者が報告されています。また、インフルエンザについ

でも学齢期を中心に流行しており、定点あたり19名と、全市と同じ傾向にあります。12月から1月は、インフルエンザにより15クラス前後が学級閉鎖になっていると報告されています。必要に応じて、学校からの感染症対策の相談に応じている状況です。

【花上議員】今の数字については、増えてきているという認識でよいのか。

【瀬戸福祉保健課長】はい、増えてきている状況です。コロナウイルスは、今年に入ってから週を追うごとに、定点あたり2.4名、4名、8名、12名と非常に増えてきています。瀬谷区医師会からは、重症化による入院で病床がひっ迫している状況ではないと伺っているので、引き続き、情報交換しながら状況を注視していきたいと思っています。

【花上議員】コロナウイルスの感染経路の特定は難しいと思うが、学校で感染するケースもあると思うので、感染が広がらないような取組はやはり必要であると考えます。医療機関との連携は非常に重要だと考えますが、瀬谷区ではきちんと連携がとれているか。

【瀬戸福祉保健課長】はい。医師会と必要に応じて連絡を取り合っており、随時、感染症に限らず何かお困りのことがないか、変化がないかということをお聞きするようにしています。

【花上議員】では、医師会や病院協会、薬剤師会などの医療機関等と効果的に連携できているということでしょうか。

【瀬戸福祉保健課長】はい、そのように努めていますし、これからも注力していきたいと思っています。

【花上議員】引き続きしっかり連携していただくよう要望する。

次に、能登半島地震について。地震をきっかけに、区民の皆様からも、横浜は大丈夫だろうかという声が聞かれてきている。横浜市では、関東大震災からちょうど100年ということで、災害に関する訓練や情報交換が多くの場所で行われている。開港記念会館でイベントがあり、私も参加してきた。関東大震災から100年経って、市民の皆様が、首都直下型地震が起きるのではないかと懸念を持ち、対策を講じなければいけないという気持ちになってきていると感じる。石川県では、大震災が起こるといふ予測や情報があまりなく、震災後に様々な問題が起きていると聞くが、横浜市では季節ごとに訓練を行いながら、震災に対する備えである自助、共助、公助を啓発していると思う。現在区内では、防

災対策の取組について、具体的にどのようなことを行っているか聞きたい。

【松田総務課長】おっしゃる通り、能登半島地震をきっかけとして、また関東大震災から100年を契機として、様々な啓発をさせていただきました。地域では、区内15か所の地域防災拠点訓練や、自治会を中心とする町の防災組織の訓練が行われており、それに対して区役所としても支援を行っている状況です。

【花上議員】私たちも様々な訓練に参加してきており、地域防災拠点訓練も見ている。日頃の備えや心づもりをしていますが、実施に巨大地震が起きたり、河川が氾濫したりしたときに、慌ててしまい対応できないということもあるかもしれないが、訓練を行うことは非常に有効であると思うので、引き続き充実した訓練を実施していただきたい。区民の皆様からも災害に対する恐怖や不安の声が出ているので、備えをしっかりとっていくことが重要である。自治会町内会だけでなく、建設業協会の皆様方をはじめ、医療団体なども含めて、包括的に巨大地震や河川の氾濫等に備える必要がある。今、区内でもそのような空気が広がりつつあるので、このタイミングで呼びかければ、皆様が真剣に対応を考えてくれると思う。特に重要なのは自助で、各家庭で水や食料をはじめとする備蓄品を備えておくことがいかに大切かということについて、能登半島地震で得られた教訓は大きい。この点について、現在備蓄をどのように促しているかという動きや実態が分かれば教えてほしい。

【松田総務課長】区役所としては、例えば広報よこはまの区版や、「マイ・タイムライン」というパンフレットを配布し、発災後にどのように自分の身を守っていくかという啓発を行っております。備蓄についても、ご指摘の通り、水や食料についてはまず自分で備えていただく、というところを啓発しているところです。能登半島地震を受けて、区民の皆様の意識が非常に高まっている状況ですので、拠点の訓練や、区からの直接の広報、講演会なども通じて、引き続き効果的な啓発ができるように努めていきたいと思っております。

【久保議員】能登半島地震については、市の職員の皆様が奮闘していることについて感謝を申し上げ、被災地の皆様には哀悼の意を表したいと思っている。災害対策について4ページ、5ページに掲げられているが、大きく前年と変わったことはないと事前に聞いている。能登半島地

震を受けて、区としての受け止め方や、今後どのように防災について取り組んでいくかということについて、考えを聞きたい。

【植木区長】能登半島地震では、特に水道や下水の被害について報道されており、今までは食料の備蓄について啓発してきましたが、それ以外にも必要になるものがある、ということが分かりました。実際に被災地支援で能登半島に派遣された職員からも話を聞き、震災では実際にどういことが起きるのかということ、訓練の場などできちんとお伝えできるようにしていきたいと思っています。

【相馬瀬谷消防署副署長】1月3日を皮切りに、瀬谷消防署から合計3隊、16名が被災地に派遣されています。現地では、道路の寸断や、情報の途絶により、初動対応が遅れてしまったという話を聞いています。これらの反省点や課題も踏まえ、今後検討や議論を重ねていきたいと思ひます。

【寺井土木事務所副所長】水道、下水の復旧に向けた調査のため、環境創造局や水道局が被災地に派遣されています。まだ道路については派遣の話がありませんが、現地では道路が寸断されていると聞くので、今後は復旧に向けた支援に行くことになるかもしれないと思っています。横浜市で同じような地震が起きた場合にも適切に迅速に対応できるよう、災害協定を結んでいる建設業協会と訓練等実施し、緊密に連携できるよう努めています。

【久保議員】しっかり防災、減災の備えを進めていただきたい。自分自身も、阪神淡路大震災の被災体験があり、防災減災を政治の中心に置かなければいけないと考え、特に注視して政策を進めてきた。できるだけ地域防災拠点などの現場にいる時間を長くし、皆様の声を聞いてきたなかで、防災備蓄庫が手狭であるという話を耳にした。以前から相沢小学校で意見が出ていたが、近年では三ツ境小学校や原中学校でも同様の声をいただいている。総務局に確認したところ、下水直結式の仮設トイレであるはまっこトイレや、段ボールベッドなど、備蓄品のラインナップが増えてきているらしい。このため、備蓄庫のスペースがなくなっているという実態がある。もちろん、市としては自助共助公助のうち、自助と共助が先にあつて、最後に公助であるという考えがある。全員が地域防災拠点に避難できるわけではないため、まずは自助を心掛けていただくという考えは正しいと思っているが、そのうえで、防災備蓄庫が

手狭であるという三ツ境小学校などの声に対して、区としてどのように取り組んでいくのか伺いたい。

【松田総務課長】おっしゃる通り、地域の方からも、防災備蓄庫が狭小であるというご意見をいただきつつ、工夫しながら備蓄品を収納していただいています。たしかに必要な備蓄品がふえてきていますので、例えば広域で保管できるものと、地域防災拠点ですぐに必要なものを整理するなど、検討を進めていくことも必要かと思っています。総務局では、狭小な備蓄庫について、簡易倉庫を増やせるように予算が組まれていると聞いております。局から情報を得ながら、どのように区内の拠点で反映できるか調整していきたいと考えております。

【久保議員】総務局の予算に、地域防災拠点機能強化事業が新しく計上されており、防災備蓄庫の簡易倉庫を設置する、とある。設置できる場所とできないところがあると思うが、まずは地域のニーズに答え、地域の防災担当の方々の意見を聴取しながら、具体的にどのような倉庫が望ましいかということを考えていただくよう要望する。備蓄品も、液体ミルクやアレルギー対策の食品などが増える傾向にあるが、スペースには限りがある。学校に備蓄庫が設置されているため、教育委員会との調整が必要な部分もあり、また、建築基準法などの制約もある。様々な課題があると聞いているが、具体的に実効性のある取組をぜひ進めていただきたい。

次に、感震ブレイカーについて。総務局の予算を見ると、感震ブレイカーの補助について、令和5年度までは木造建築物の密集地域に限定されていたものが、6年度から全区に普及啓発していくことになっており、個人的には非常に喜ばしいことと感じている。以前、瀬谷区の自主企画事業において、感震ブレイカーの設置補助を2年間実施していたかと思う。その際、2年目は申請件数が非常に少なく、その理由は、1年目で広く区民の皆様が必要性を認識し、設置していただいたためだと聞いた。しかし、今回局でも新たに感震ブレイカーの設置補助事業が盛り込まれたので、区としても今一度周知しておくことが必要だと考えている。今後どのように取り組んでいくのか伺いたい。

【松田総務課長】感震ブレイカーの設置の補助について、これまで瀬谷区は対象となる地域がないため、市の制度では対象外でしたが、区の事業として令和3年度と4年度に補助事業を実施しました。令和3年度

は、当初の目標を 650 世帯としていたところ、それを上回る 795 世帯から補助の申請がありました。翌年度の令和 4 年度にも同様に周知しましたが、申請件数は 3 世帯でした。年度の後半に、区連会で再周知し、比較的木造住宅が多いと思われる自治会町内会の会長の皆様にも直接ご連絡をするなど、積極的な働きかけを行いました。実績としては 1 自治体 3 世帯でした。当時、十分に周知を行ったにもかかわらず、申請件数が少なかったことを踏まえ、本事業が一定の役割を果たしたと判断して終了したという経緯があります。ですが、今回、局が対象を拡大して実施するという事なので、区としても事業や制度についてしっかり情報収集し、分かりやすく区民の皆様にお伝えすることで、申請に繋がっていきたいと考えています。

【久保議員】感震ブレーカーの普及をしっかりと進めていただくことを、改めて要望する。

6 ページの、スクールゾーン対策助成事業について。近年、交通安全意識の高まりを受けて、地震でのブロック塀の倒壊対策など、スクールゾーン対策にしっかり取り組んでいただいていると思う。道路局では ETC2.0 のデータを活用した取組があり、4 校の交通安全推進校のなかに、今年度は原小学校が選定された。具体的にどのようなことに取り組んできているのか、実施した対策について教えていただきたい。

【寺井土木事務所副所長】今年度の実績についてご報告します。舗装補修及び路面標示、区画線の設置を行う工事を 2 本、区画線の設置のみを行う工事を 1 本発注しました。具体的な実績については、現在のところ、舗装補修は 12 か所で 6,000 m²、道路に速度抑制の凹凸をつけるハンプは宮沢 3 丁目 36 番地付近に 1 か所設置しました。また、道路外側の外側線に色を塗るなど、22 か所に区画線を設置しています。

【久保議員】ハンプを作ったりカラー舗装をしたりしていただいていると。これは、土木事務所が実施していることは認識しているが、道路局の予算だと聞いている。予算額としては十分なのか、もう少し充実が望まれるものなのか、実態を伺いたい。

【寺井土木事務所副所長】今年度道路局では、本事業のために補正予算を組んでいます。すべての学校で行っている交通安全対策事業費にくわえ、原小学校は、交通安全推進校として、さらに上乗せで予算をもらっています。これで十分ということはありませんが、通常以上の整備がで

きたと捉えています。今後、推進校としての期間が終了した後も、必要に応じて対応策を練っていきたいと考えています。

【久保議員】交通安全対策を十分に講じることができる予算ということか。

【富永土木所長】原小学校については、前年度まではなかった予算が純増でついているので、区内の狭い道路のなかで、できる範囲のことは実施できる予算をいただいたと思っています。ただ最近、他にも安全対策が必要だと考えている小学校も多くありますし、物価の高騰で土木事務所の予算も多少増えてはいますが、物価の高騰に追いついておらず、工事の方法や対策の内容について工夫が求められています。予算があつたとしても、今まで以上に使い方を工夫していかないと、実効性のある対策を行うのは難しい状況です。引き続き、どのような対策なら実効性があるのか、ということについて気を配りながら、知恵を出し合って事業を進めていきたいと思っております。予算は必ずしも十分な額とは言い切れない、という認識です。

【久保議員】様々な工夫をしていただいていることに感謝を申し上げ、引き続き着実に進めていただくよう要望する。

次に、8ページのまちづくり推進事業について。他の議員から、GREEN×EXPO 2027についてはしっかり進めていくべきという話があり、自分もそのように考えているところである。瀬谷駅周辺の活性化のための取組を検討すると書いてあるが、具体的に教えてほしい。

【吉原区政推進課長】GREEN×EXPO 2027の玄関口となるのは、やはり瀬谷駅北口の駅前広場であると思っております。駅前広場の活用に向け、近接する事業者の方やお住まいの方、そして区役所も参加する瀬谷駅北口駅前広場活用推進協議会を設けており、定期的に会合を開いてイベントの開催などを企画しています。具体的には、昨年9月に実施したかがやきフェスティバルの定着化を図り、さらにそれに加えて、新たな活用イベントも考えていきたいと思っております。これまでも実施してきた、瀬谷産の野菜を直売するイベントであるせやマルシェなど、区主催のイベントも定期的に開催することで、定着化を図りたいと考えています。

【久保議員】GREEN×EXPO 2027に関係して、瀬谷中学校の移転の問題についても、区民の皆様から話を聞いている。様々な取組を行っているということは承知しているが、移転に関する近況について教えていただき

たい。

【植木区長】来年度の教育委員会の予算において、基本設計に向けた予算が組まれている、というところまで情報を得ています。この件については、学校そのものや、関連する地元の自治会にも情報提供が始まっていると聞いています。

【久保議員】地域の方から、瀬谷中学校を瀬谷西高校の跡地に移転してほしいという要望を聞いていて、市長に対しても申し入れをしていると聞いている。区役所としては、どのように関わりを持っているのか。

【植木区長】今年度と数年前に、瀬谷中学校の移転に関する市長陳情がありました。瀬谷区の連合町内会自治会連絡協議会からの陳情ということで、区役所が間に入って、教育委員会等と調整をさせていただきました。

【久保議員】今後、上瀬谷のまちづくりにおいて、近くということもあり、瀬谷中学校の件が関連してくるかと思うので、丁寧に地域の声を聞きながら進めていただくことを要望する。

10 ページのプラスチックごみの分別リサイクルについて。プラスチックごみの分別方法が変更になるということで、今年10月から瀬谷区も先行して取り組むと聞いている。区民の皆様に周知していくうえで、瀬谷区には、外国人の方も多くいらっしゃるが、どのように啓発していくのか聞かせてほしい。局でも広報に取り組むというのは承知しているが、ごみの分別については近隣トラブルのひとつの原因でもあるので、区として対応を考えているか確認したい。

【屋代資源化推進担当課長】おっしゃる通り、外国人の方にもごみの分別にご協力いただいて、ごみの減量やリサイクルを推進していく必要があります。現在、資源循環局で、多言語のチラシや広報動画を作成していると聞いています。このような広報物も活用しながら、外国人の方が困らないように啓発を進めていきたいと考えております。

【久保議員】よろしくお願ひしたい。瀬谷区には、中国の方やベトナムの方が一定数お住まいになっている。国際局が国際交流ラウンジを設置しており、瀬谷区としても区提案反映制度で局に要望しているが、ラウンジの設置についてどのように考えているのか改めて確認したい。

【松岡地域振興課長】お話しいただいた通り、国際交流ラウンジについては、区提案反映制度で瀬谷区に設置を要望しており、方向性について

国際局と密接に話し合っているところです。また、国際交流ラウンジに限らず、外国人支援のために国際局や YOKE と連携して様々な事業を実施していますので、ネットワークを活用しながら、それぞれの事業をより深めていきたいと思っております。

【久保議員】11 ページの子育て応援事業について。4（4）に、「もっとつながる！瀬谷の子育てネットワーク事業」という新規事業があるが、市長も子育て支援を前面に押し出しているなか、この事業ではどのようなことを実施するのか聞きたい。また、昨年、デジタルプラットフォームにより市民の意見募集を行い、瀬谷区も対象となっていたが、参考にしたい声があれば合わせて確認したい。

【深見こども家庭支援課長】昨年のデジタルプラットフォームでは、子育て支援に関して様々なご意見をいただきました。来年度は、瀬谷区の地域子育て支援拠点と連携し、子育て支援施設等の利用者の意見交換や、ウェブでのアンケートによりご意見を伺いたいと思っています。さらに、子ども自身から意見を聞く機会も確保していきたいと思っています。お寄せいただいた意見を踏まえて、すでに地域にある子育て支援ネットワークの活用や、新たな支援策の構築など、ニーズに合った支援ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

【久保議員】同じ子育て支援ということで、12 ページの瀬谷区版寄り添い型生活支援推進事業について。新規事業として土曜開所を実施すると聞いているが、どのような必要性やニーズがあったのか確認させていただきたい。

【深見こども家庭支援課長】生活支援推進事業については、区内2か所で実施していますが、このうち主に北部地区を管轄する施設で土曜開所を予定しております。今まで、運営事業者が積極的にニーズを探ってくださり、利用者のなかには、平日に部活動があり施設を利用できない方がいらっしゃるという情報を得ていました。事業者が試行的に土曜開所を実施していましたが、来年度から新たに予算措置をすることで、毎月1回程の実施回数を確保し、事業の安定化を図りたいと考えています。施設を利用する児童のなかには、他の福祉サービスに繋がっていないケースもあるので、例えば冷蔵庫にある食材を自分で調理するなど、利用者の自主的な生活力を高める支援に繋がってきたいと考えています。

【久保議員】新規事業として実施していただくということで、ありがたく思っている。生活にお困りの家庭も多いかと思うので、来年度実施してみて、どのような効果があるか、今後どのようなことを実施していくべきか、方向性を見定めていただきたい。

【川口議員】来年度、新しい局である脱炭素・GREEN×EXPO 推進局が設置される。他区と比較して、瀬谷区は新局と向き合う機会が多くなるかと思うが、意気込みなどあれば聞かせてほしい。

【植木区長】GREEN×EXPO 2027 まであと3年しかないので、新しい機構となっても、各方面との調整を着実に進めていただきたいと思っています。区としては、区民の皆様が驚いたり不安になったりすることが無いよう、積極的に情報収集を行い、皆様にお伝えしていきたいと考えています。

【川口議員】局から情報を得るだけでなく、区民の皆様のご意見や、まちの課題などをより詳しく伝えていくという機能が、改めて区役所に求められるようになると思う。その点に関してはどうか。

【植木区長】現在も様々な場面で、特に上瀬谷の開発等についてご意見をいただくことがあります。これまでも、いただいたご意見は都市整備局に伝えてきていますが、今後事業の進捗に伴い、ご意見の数も増えてくると思うので、引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

【川口議員】交通渋滞への不安や、様々な事業者が携わることによる事故の危険性についても、これから増えてくるかと思う。地域の方々や、区役所にしか分からない課題があるはずなので、局との連携を改めて意識していただければと思う。

GREEN×EXPO 2027 の公式キャラクターが3月に決まるという話を聞いた。6月に愛称も決まり、今後いよいよキャラクターが本格始動していくところだと思っている。公式ロゴマークは、著作権などの問題で、なかなか思うように使えないと聞いているが、これからは公式キャラクターを前面に押し出していくことが必要だと思う。瀬谷区のキャラクターであるせやまるとコラボレーションするなど、今の段階でイメージや計画はあるか。

【植木区長】園芸博バージョンのせやまるとのオブジェを作ったところ、いろいろな場所やイベントで、お子様からシニアの方まで喜んで記念撮

影していただき、せやまるが区民の皆様に非常に親しまれているキャラクターであることを実感しました。GREEN×EXPO 2027の公式キャラクターが決まった際は、国際園芸博覧会協会のPRや、区としても開催を楽しみにできるようなPRとして、せやまと一緒に使わせていただきたいと思います。ただ、まだ公式キャラクターの使い方が分かりませんので、まずはせやまるでGREEN×EXPO 2027のPRを進めながら、公式キャラクターが使用できるようになった段階で、コラボレーションを考えていくことになるかと思っています。

【川口議員】うまく活用できるのであれば、せやまと一緒に、瀬谷区のなかでも活躍してほしいと思っている。

公式キャラクターについては、現在意見募集のポスターが作られており、区庁舎や瀬谷センターなどに掲示されている。個人的な感想ではあるが、今日1階のリユース掲示板の横にポスターが貼ってあるのを見て、どちらかというと暗いところに掲示されているような印象をもった。3年後の国際的なイベントの公式キャラクターを決める、非常に有意義な機会を周知するためのポスターなので、可能であれば、もう少し明るく目立つ場所にあると良いかと思うが、どうか。

【松田総務課長】区庁舎のなかでしっかり工夫をして、より周知していくよう心掛けたいと思います。

【吉原区政推進課長】公式キャラクターの意見募集については、区連会で周知をはかり、各自治会町内会長の皆様に対し、単位町内会での情報提供をお願いしております。瀬谷区は開催区ですので、いろいろなご意見を積極的にいただけるよう、引き続き努めていきたいと思っています。

【川口議員】今年度実施した、瀬谷区区民意識調査の概要版資料のなかには、「国際園芸博覧会の認知度」という項目がある。現在はGREEN×EXPO 2027という略称が決まっているので、国際園芸博覧会という呼称を使わず、GREEN×EXPO 2027という表記を前面に押し出していくべきかと思うが、どうか。

【吉原区政推進課長】区民意識調査は、昨年度から設問の準備をしており、最近結果がまとまりました。このため、資料中でも設問の表記を変えずに記載しましたが、現在は機会を捉えて、積極的にGREEN×EXPO 2027という言葉を使うようにしていますので、今後は資料作成等の場面でも留意したいと思います。

【川口議員】そのような事情があるとは思っていたが、やはり GREEN× EXPO 2027 という略称を押し出していくべきだと思っているので、よろしくお願ひしたい。

先程久保議員より、瀬谷中学校の移転の話が出た。これから、瀬谷中学校が瀬谷西高校の跡地に移転することになった場合、テーマパークのためや、新駅のために移転になったという受け止め方をされないようにしてほしい。瀬谷中学校には、冬の夕方には真っ暗になってしまう旧上瀬谷通信施設付近を、徒歩や自転車で通っている方がいらっしゃるという通学の問題があり、もともと瀬谷区の北側にお住まいの方から移転の要望が出ていた。それ以外にも、教室数の不足により、プレハブ校舎で授業を行っているなど、様々な課題があった。地域からの要望書が何回か出されたうえで、上瀬谷のテーマパークの話が重なり、移転に関する検討に繋がった。テーマパークのために瀬谷中学校が移転になる、というストーリーにならないよう、これまでの経緯や歴史も含めて、丁寧に説明いただくことはできるか。

【植木区長】瀬谷中学校の施設が老朽化かつ狭隘化しているため、中学生にふさわしい、教育施設としての役割を果たす施設に新設してほしいということで、区連会から移転に関する要望が出ていました。ですので、現瀬谷中学校の場所の問題ではなく、今の中学生に適切な教育活動が行える施設に変えるために、より広い瀬谷西高校の跡地に移転するという説明をしていくことになると思います。ご心配の点については、教育委員会にも共有します。

【川口議員】新しい交通やテーマパークの話は、新聞等のメディアに取り上げられやすい話題であり、瀬谷中学校の移転とも関連付けられやすいと思う。生徒の皆様、そして保護者の皆様のために移転するというのを、地域の皆様からも発信していただけるよう周知していただくことを要望する。

来年度の個性ある区づくり推進費の予算について、17 ページに農福連携がある。今までも質問しているが、現在の進捗状況はどうか。

【瀬戸福祉保健課長】前回の市議会議員会議では、実際に農福連携をしている施設で現場視察・勉強会を実施したことをご報告しました。施設へのヒアリングや訪問で様々な声を聞き、現在は、それぞれのニーズに合った対応を考える段階に入ってきています。施設により、農福連携の形

やイメージも異なっており、日中活動のプログラムの一環として農業体験をしたいという施設や、施設内で家庭菜園のような規模で実施したいという施設、さらにはもう少し踏み込み、実際に農業への参入を考えている施設もあることが分かりました。各施設の考え方に合った支援をしていくことが重要だと思っていますが、各法人では人員確保や配置、職員の負担、モチベーションなど、人的な課題もあるようです。法人の経営に関することは、区役所としても支援が難しいところがありますが、区としては、コーディネーター派遣により農作業のノウハウを伝えるなどの支援を進めていきたいと思っております。

【川口議員】農福連携という言葉だけが独り歩きしているような状況があるのかと思っていたが、今の話で実態がよく分かった。引き続き施設とコミュニケーションをとっていただければと思う。

次に、19ページの読書との出会い応援事業について。読書をするなかで、人とアウトプットを共有したり、交流したりすることによって、本の内容が定着すると感じている。様々な地域で読書会が行われていると聞くが、瀬谷区の図書館でも実施しているのか聞きたい。

【小泉読書推進担当課長】瀬谷図書館での読み聞かせ会や朗読会は、今年度34回開催しています。お子さんを中心にしたものもあれば、大人を対象とした会も開催しており、月2～3回程度実施しています。

【川口議員】教育委員会で策定を進めている横浜市図書館ビジョンのなかで、地域の魅力を作るという角度で図書館を捉えている部分があると思っている。ただ個人で読書をする場所ではなく、交流することで地域の魅力づくりに繋げていく、ということが、今の図書館の新たなトレンドになってきていると思う。先程、朗読や読み聞かせの話があったが、読んだ本の感想を話し合う、シンプルな読書会の形もあると良いのではないか。瀬谷図書館で主催すれば、非常に有意義な会になると思うので、ぜひ検討していただきたい。

【小泉読書推進担当課長】市民の交流という面では、乳幼児を対象とした「ひよこのおはなし会」を月2回開催し、司書とボランティアで30分ほど、手遊びや絵本の読み聞かせを行っています。赤ちゃんが対象ということで、保護者も一緒にいらっしゃるので、活動の後は、図書館の会議室を開放し、保護者同士で交流してもらっています。職員もその輪に入り、お話し会の感想を聞かせていただくなど交流を図っています。

【川口議員】素晴らしいことだと思う。本を主役にして交流すると、年齢も職業も関係なく、色々なことを話しやすくなるというメリットがあると思っている。地域で読み聞かせのボランティアをしているが、本をきっかけにすると、子どもとコミュニケーションをとりやすくなる実感している。個人的な体験として読書をする場所ではなく、交流のきっかけになる本を置いてある場所としての図書館も魅力的である。今後さらに進めていただきたい。

21 ページの、GREEN×EXPO 2027 機運醸成事業について。GREEN×EXPO 2027 は、GX が背骨になるイベントだと考えているが、GX に焦点を当てた機運醸成は実施するのか。

【吉原区政推進課長】現状では、GX に特化した機運醸成は実施しておりません。市長が「グリーン万博」と言っている通り、環境に関する様々なテーマに関わる博覧会になると思いますので、花や緑、さらに瀬谷区の特徴である農業や、来年度は脱炭素について小学生に考えていただけるような事業を計画していますので、そのなかでGXについても考えていきたいと思っています。

【植木区長】今回の資料にある機運醸成の中では、特にGX にスポットを当てたものはありませんが、環境について考える事業はほかにもあります。これらの事業を進める際は、環境を考えることが、GREEN×EXPO 2027 の趣旨に結び付いていくことを合わせて広報し、GX に繋げていきたいと思っています。

【川口議員】9 ページにある環境行動普及啓発事業は、まさにGX に繋がる事業だと思う。GX という言葉は、説明しろと言われても、自分自身もまだうまく説明できない。GX という言葉は幅が広く難しいが、今後の世の中ではスタンダードになる考え方だと思っている。環境に関係する事業のなかでも、GREEN×EXPO 2027 に繋げられるような仕組みや工夫をさらに考えてほしいと思う。

22 ページのイルミネーション事業について。区長とイルミネーションについて話した際に、様々な色を使うとより良いのではないかと話した。多くの色を使うには、弊害やハードルもあると聞いたが、詳しく教えてほしい。

【吉原区政推進課長】イルミネーションを瀬谷駅の北口と南口で実施していますが、赤色のLED は赤信号と紛らわしいため、使用しないでほしい。

いということ相鉄線から依頼されています。ですので、複数の色を組み合わせる場合でも、赤色は避けなければいけないと思っております。多くの色を使うとなると、費用面の課題もありますが、いただいたご意見を参考にしながら、来年度のイルミネーションについて組み立てていきたいと思っております。

【川口議員】一色でもあたたかみがあるが、イルミネーションだからこそ、華やかな演出もできると思う。交通機関の安全にも配慮しながら、工夫を凝らしていただければありがたい。

22ページの、農の魅力PR事業について。いちごの観光農園を見据えたビニールハウスが上瀬谷にできたということで、先日、区長と視察に行ったところである。まずは所感から伺いたい。

【植木区長】今のままの上瀬谷の農業は続けていくのが難しいということで、都市に合う形を考えるなかで、新しくいちごに着手されたという伺っています。出荷から消費までの時間が短いので、完熟のいちごを提供できると聞いています。観光農園としては、その場でいちごを摘んでいただくことで、農作物、食料がどのようにできていくのかということ、小さなお子さんをはじめとする多くの方に意識していただく、良い環境だと考えています。

【川口議員】市販のいちごは、店頭で並ぶよりもかなり前に収穫されているため、甘さよりも酸味を感じることもあると思う。しかし、観光農園ではその場で摘んで食べることができるので、完熟の甘さを多くの方に味わっていただくことができる。現在は、上瀬谷の地権者のなかの有志の皆様で、実験的に1棟ビニールハウスを作っている。今後は、農業振興ゾーンでさらに多くのビニールハウスを作り、いちごの観光農園をやっていく考えだと聞いている。GREEN×EXPO 2027の後、メディア等も含めて多くの方に周知されやすいのが、テーマパークに関する話題だと思っている。しかし、それだけでなく、公園・防災ゾーンには桜の名所ができ、農業振興ゾーンには観光農園もできる予定である。テーマパークに限らず、上瀬谷のエリアには大きな可能性があるということ、様々な場面で周知していただくよう要望する。特に、都市農業の振興を目指す農業振興ゾーンについては、まだ認知度が低いと思っている。瀬谷区から、観光農園という、都市農業の未来に繋がる下地が出来上がってきているので、区役所としての広報力や影響力を大いに生か

して周知してほしいと思っている。

【花上議員】20ページの、横浜トリエンナーレ応援プログラムについて。今までは市の中心部に関心が集まっていたが、あじさいプラザでアートフェスタを開催し、地域からもこの大きな国際イベントを盛り上げていこうということで、非常に画期的な取組だと思う。瀬谷区のなかの美術団体と連携して盛り上げていくようだが、ぜひ区役所一体となって協力し、成功させていただければと思う。

また、瀬谷駅北口で実施しているせやマルシェについて。せやマルシェは、JA（農業協同組合）に協力いただいて開催しているイベントということで良いか。

【吉原区政推進課長】せやマルシェは、地産地消月間である11月に実施しています。同じ月には、JA横浜瀬谷支店が開催している農業まつりもある関係で、JAとは密に連携して開催させていただきました。

【花上議員】JAと協力して実施するというのは良いことだが、せやマルシェの「マルシェ」という言葉はフランス語で市場を意味するので、農作物だけではなく、瀬谷の市場としてのイベントにグレードアップしていくべきだと思う。協力いただける方を募り、瀬谷区の様々な物産を取り扱うような、マルシェの名にふさわしいイベントにしていくよう、具体的に検討してほしい。

また、先程高齢者の話があったが、高齢者の認知症やうつ病が非常に問題視されている。子育て支援はもちろん、こうした高齢者の問題についてしっかりと対応していくことが、今の時代は重要だと考える。お年寄りが孤独になることが、認知症やうつ病の原因になるとよく言われており、テレビの医療番組でも、人と会って話をすることが大切だと専門家が語っている。そのためには、高齢者の居場所を作ることが必要である。定年退職した後に、地域に居場所がなく、孤独になってうつ病を発症するというケースもあると聞く。瀬谷区内に、高齢者の方に限らず、区民の皆様が集まって話をする場を作る必要があるのではないかと、最近改めて思っているところだが、どう考えるか。

【府川高齢・障害支援課福祉保健相談係長】現在も、当課の高齢者支援担当では、認知症カフェや居場所づくりなどに取り組んでいるところです。居場所づくりとは切り口が変わってしまいますが、今週の土曜日にも、高齢の方や、高齢の方のご家族に向けてエンディングノートのイベ

ントを企画しています。居場所づくりについては、場所の確保や人が集まるかという問題もありますが、これからも様々な形を検討しながら進めていきたいと考えています。

【花上議員】基本的な方向性については、十分理解いただいていると思う。昨今、商店街に空き店舗が増えてシャッター通りになってしまっているという問題があり、瀬谷区でも深刻化しているという話を聞いている。たとえば商店街の一角に、区民の皆様が集まれる場所を作るというのはどうか。商店街と話し合い、空き店舗利用の方法の一つとして、人が集まれる場所や、カフェを作るのはどうだろうか。

【松岡地域振興課長】今年度から、商店街の皆様と、横浜市立大学の先生と連携しながら、商店街の将来像について話し合う「あきんど寄合」という事業を年4回実施しています。ちょうど今、これから商店街をどのようにしていくか、ということ商店街の皆様で主体的に考えており、様々なアイデアが生まれているところです。実際に、商店を借りて居場所づくりをしている団体もあると聞くので、そのような方も巻き込みながら、さらに皆様と話し合っていきたいと思っています。

【久保議員】一点だけ要望を。境川の境橋と新道大橋の中間地点に、人道橋を作ってほしいという声を多くいただく。瀬谷区から見て対岸の大和市側にバス停がいくつかあるが、今は境橋や新道大橋まで迂回しないと行くことができない。20～30年前はそれでも良かったが、高齢になって行くのが難しいという声がある。大和市側の高層住宅前というバス停のあたり、瀬谷区側は下瀬谷保育園の近くに橋があれば良いと思う。ラストワンマイルの距離が地域交通の課題になっており、都市整備局でも様々な交通手段を検討しているところではあるが、現状、一律で交通網を拡大することは困難だと思っている。橋を作って、交通の不便を解消できないかというご意見があったので、この場で伝えさせていただく。

【寺井土木事務所副所長】境川は二級河川の本流であり、関係機関に調整が必要ですが、地元の皆様のご意見を踏まえ、どこが担当するのか、管理するのかということ調整していきたいと思えます。

【花上議員】今の話は、約30年前にもあった。境川に人道橋を作ってほしいという陳情があり、横浜市で予算化され、実現に向けて動き始めていた。ところが、大和側との調整に難航し、結局実現しなかった。もし再び検討する場合、土木事務所が担当するのであれば、大和側に配慮し

ながら進めていくよう努めてほしい。

【寺井土木事務所副所長】情報をいただきありがとうございます。一度予算化されたということまでは情報を掴んでいなかったもので、当時どのような陳情があったのか、また、大和側とどのような話し合いがあったのかも調べたうえで、実現に向けて少しずつでも調整を進めたいと思います。

<その他報告案件>

【深見こども家庭支援課長】報告案件があります。本日資料としてお配りしているものが二つありますが、まず一点は、障害児の支援パンフレットとして今年度作成した「Map つぶ」という冊子です。発達が気になるお子さんの子育てマップとして200部作成しました。現在、児童発達支援施設等を利用いただいている、この春に小学校に入学するお子さんには、すでに郵送させていただいたところです。新年度からのサービス利用のイメージが湧くよう、各事業所の特色等を写真でご紹介しています。二点目は、外国語カードです。赤ちゃんが生まれると、生後4か月までに、地域の訪問員が子育て情報を伝えるために伺う「こんにちは赤ちゃん訪問」を行っていますが、外国人のご家庭には、詳細な子育て情報をお伝えすることが困難でした。このカードを使うことで、訪問員が訪問した趣旨と、困ったときの相談窓口を紹介させていただいています。こちらも最近完成したので、ご報告させていただきました。

もう一点、オレンジのポロシャツを作成しました。毎月5日は、本市の「子どもを虐待から守る条例」に規定された、子ども虐待防止推進の日です。職員が一丸となって、庁内外に子ども虐待防止を普及啓発できるよう、毎月5日と、その他関連イベントでポロシャツを着用し、取組をアピールしたいと考えています。本日2月5日が、ポロシャツの作成後初めて職員が着用している日であり、4階のこども家庭支援課の職員がこれを着て業務についていますので、合わせてご報告させていただきました。

備 考